

少子化や核家族化に加え、コロナ禍で加速する「孤育て」の問題 ボーネルンドのプレイリーダーが、孤育ての悩み・不安の解消を促進

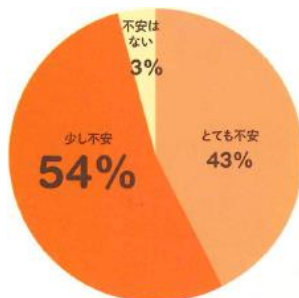
子どもの健やかな成長に寄与することを目的に、教育玩具の輸入・開発・販売とあそび環境開発を行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、自社運営のあそび場施設に常駐するプレイリーダーの働きかけを通じて、社会問題となっている、「子育ての孤立化」の解消に向けて取り組んでいます。実際にいただいた利用者の声とともに、当社の取り組みをご案内いたします。

コロナ禍で更に深刻化する、「孤育て」の問題

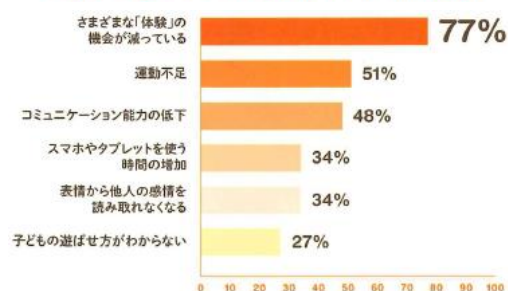
昨今、少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化が進んでいるところ、新型コロナウイルスの流行によって、交流の機会がますます減っています。こうした背景から、子育ての環境が孤立化し、不安や悩みを相談したり、共感し合っただけで気持ちを楽しめる相手がいない「孤育て」の問題が深刻になっています。

実際に、当社が発行する子育て応援誌「あそびのもり」にて実施した子育てママの実態調査*では、約9割のママがwithコロナ時代の子育てに不安を感じていると回答しています。また、実際の心配ごととしては、さまざまな「体験」の機会が減っていることや、運動不足、コミュニケーション能力の低下など、新型コロナウイルスの流行によって懸念が増した事柄が上位に挙げられています。このように心配やお困りごとの種が増えるなか、子育てについて相談できる相手の存在はますます重要性を増しています。

Q. これからのwithコロナ時代、子育てに関する不安はありますか？



Q. 子育てについて心配していることは何ですか？(複数回答)



※あそびのもり(ボーネルンド発 子育て応援誌)xmamatas(ママ向け情報を動画で届けるママメディア)実施調査
「これからの時代の子育ての希望と不安、教えてください」
調査期間:2020年11月27日~12月6日/調査件数:Instagram ストーリーズ/回答数 198名

ボーネルンドのあそび場施設のプレイリーダーが、「孤育て」の問題に取り組んでいます



ボーネルンドが運営する親子のあそび場施設では、常駐する「プレイリーダー」が、パパママが抱え込みがちな子育てやあそびの悩み・不安の相談相手となっています。

ボーネルンドでは、自主的・能動的なあそびを通して子どもが成長し、家族で楽しく過ごせる環境を整える必要があるという考えのもと、“こころ・頭・からだ”のすべてを使ったあそびが楽しめる屋内外あそび場「キドキド」「プレイヴィル」「トット・ガーデン」の開発・運営を全国24か所で進め、年間約200万人以上の親子にご来場いただいています。プレイリーダーはこれらの施設で、様々な子どもの成長・発達段階や興味・関心に沿ったあそびを提案し、あそびの発展を促す役割を担う、あそびのプロフェッショナルです。

プレイリーダーは、日々キドキドなどのあそび場で子どもとあそびについて考え、年間で千人～数万人もの親子に携わり、子ども一人一人をよく観察し、それぞれの発達や、興味関心を引き出すノウハウを蓄積しています。そのような経験に裏打ちされたプレイリーダーは、施設に来場されるパパやママの気軽な相談相手となっています。また、プレイリーダーが提案するあそびと対話を通して、毎日接する中では気づきにくい我が子の変化や成長に気付いたり、子どもの興味関心が向きやすい事柄を知れたりすることも喜ばれています。

加えて、「できていい月齢なのに、ズリバイ・ハイハイや立って歩くことができない」「させたいあそびに興味をもってもらえない」といった悩みに対しても、遊び方を中心にそれぞれの興味関心や発達に応じたアドバイスや、動き・あそびを促す具体的な工夫を提示し、「話せて安心できた」「今後の子育ての参考になった」との声を多くいただいています。

【 あそび場施設をご利用されたお客様の実際の声 】

相談相手がいない不安が解消された

- 2人の子どもの子育てに追われ、いっぱいになっていた。近くに相談できる相手もいない。そんな中、プレイリーダーに丁寧に話を聞いてもらえて、気持ちがすごく楽になり、助かった
- 引越したばかりで、ママ友や相談できる相手もおらず、とても不安だらけだったが、あそび場で友だちも沢山でき、親子ともに明るくなった

子どもの発達について、不安が解消された／新しいことに気付けた

- 8ヶ月を過ぎてもズリバイができず、発達の遅れを心配していた。そのことをプレイリーダーに話したところ、「発達には個人差があるので、ゆっくり赤ちゃんの成長を見守ることが大事」と言ってもらえて安心した
- 子どもがずっとハイハイばかりで、歩けるようにならない悩みを相談したところ、ハイハイが子どもの発達にどのように役立っているかや、子どもによって歩くようになる時期が違うことを教えてもらった。WEBやSNSには「〇ヶ月には〇〇ができる」といった情報も多く、調べるほど子どもの成長が遅れているのでは、という不安が募っていたが、実際に様々な子どもを見てきた経験から話してもらえて楽になったし、ためにもなった
- 1歳になっても話せるようにならず、両親からも、読み聞かせができていないから発達が遅いと言われて悩んでいた。そんなときプレイリーダーから、その月齢では単語を口に出すくらいでも問題ないことや、4才まで無口だった子が5才前に話すようになった例を教えてもらい、安心できた
- 2歳の子どものが、あそび場に来て一つのアそびだけしかしないことので少し心配だった。そこでプレイリーダーから、「成長過程の中で俯瞰遊びという、誰にも干渉されずに1つのことだけに集中してあそぶ時期がある」と教えてもらい、安心できた
- 子どもがおままごとコーナーで、口までスプーンを運び、食べている動作をしていた。そこでプレイリーダーから、「日頃からフォーク・スプーンを使っているのですね。お口へ運ぶ動きがスムーズですね」と声をかけてもらったのがきっかけで、最初と比べて上手になっていることに気が付けて、成長を実感できた

子どもの成長やあそびを促す、様々な工夫の方法を知れた

- 子どものズリバイの練習を手伝ってもらった。少し離れたところで好きなおもちゃの音を鳴らして置いてみる、ボールを赤ちゃんの近くから転がして追いかけさせてみる、あそび場内の様々な場所でうつぶせにしてみるなど、今まで思いつかなかった色々な工夫で促してくれた
- 積み木が発達に良いと聞くので遊ばせたいが、子どもが興味を示さないことに悩んでいた。プレイリーダーは、子どもが木の車でたくさん遊んでいることに着目し、「好きなあそびと積み木を組み合わせる」ことを提案、積み木で街をつくり、車の荷台にも載せたりして、子どもに声をかけると、自然と積み木で遊んでくれた

【プレイリーダーについて】

ポーネルンドのプレイリーダーは、指導者ではなく、あそびが生まれるきっかけをつくる人。決まった遊び方を指示するのではなく、「こころ・頭・からだ」の成長につながるあそびを創出します。子どもの「おもしろそう」「やってみよう」という興味や関心、好奇心を喚起し、あそびの可能性を広げていきます。ポーネルンドの運営するあそび場だけでなく、幼稚園や保育園、外部での催事など出張プレイリーダーでもあそびの楽しさや大切さを伝える活動をしています。

【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため 1981 年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国 63ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万 5 千ヶ所まで拡大しています。また、2004 年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる屋内あそび場「キドキド」事業をスタートし、現在では全国 17 ヶ所、年間約 200 万人、さらに「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の屋内あそび場を含めると全国約 50 ヶ所、年間 350 万人以上の親子が訪れています。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーネルンド 広報部 担当: 西山、村上

TEL: 03-5785-0860、080-5901-3591

e-mail: public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーネルンド

TEL: 0120-358-518 (月~金 10:00~17:00)